

手指衛生

病院用洗面器による手指衛生の促進

適切な手洗い環境の整備と運用は衛生管理の要

患者と看護師それぞれにおける動線上適切な各所への設置が求められる手洗い設備。自動水栓による非接触化はもとより、ハンドソープ、アルコール消毒液、ペーパータオルホルダー、ゴミ箱の設置など、手洗いから乾燥までの一連の行為への配慮が必要です。また、水の飛散を抑制し、清掃性にも配慮した洗面器の設置が重要です。

水栓ハンドルへの手の接触についての検証

水栓ハンドルに接触することで100%細菌が再付着します。非接触での手洗いが理想です。
[モデル試験]水栓ハンドルを閉めることで細菌が手に再付着した人数20/20でした。

ハンドル式水栓



TOTO総合研究所でのモデル試験風景

単水栓の細菌が手に付着する件数
付着なし 0人



●調査実施時期:2011年8月 ●実験室でのモデル試験 ●被験者数20人

●試験方法:単水栓ハンドル上部に細菌(手から回収)を500cfu程度付着させた。滅菌手袋をつけた手で単水栓ハンドルを触った直後に手袋から細菌を滅菌綿棒でふき取り回収した。回収した細菌は標準寒天培地に24時間培養後に計測した。

2012年度 第39回日本防菌防霉学会年次大会ポスター発表より

病院施設課アンケート調査結果

Q. 病院の“洗面器”に求めること
(複数回答)

1位	しっかり洗える(93%)
2位	水はねが少ない(90%) 掃除がしやすい(90%)
3位	座位使用も可能(60%)
4位	水の滞留が少ない(38%)

※上位5項目

出典:癒しのトイレ研究会調査(2021年/n=40)

病院用洗面器(樹脂製)(TOTO)

病棟の個室や多床室、外来トイレなどさまざまな場所にご利用いただけます。

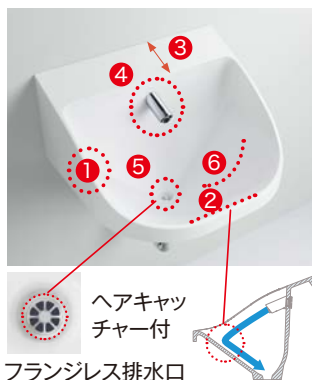
水の飛散を抑制し、清掃性にも配慮

水の飛散を抑制したボウル形状

- ①ボウル側面部のサイドガードが、ボウルの外へ水の飛散を抑制。
- ②吐水が当たるボウル手前部に傾斜をつけ、手前方向への水の飛散を抑制。

清掃性に配慮

- ③傾斜をつけて水滴付着を抑制。
- ④設置面まわりが汚れにくい壁付タイプの自動水栓を採用。
- ⑤排水口は汚れが付きにくいフランジレス仕様。
- ⑥ボウル内は平滑部がなく水がたまりにくいR形状。



共用トイレイメージ

納入事例

2017年、順天堂大学医学部附属浦安病院へ導入されました。看護師が各所で手洗いができるように配置されています。



手が洗しやすい大型ボウル

深く大きく、底面や側面に指先が当たりにくい構造。水はねを抑制します。



狭いスペースにも設置可能

従来の壁掛洗面器と同等のコンパクトなサイズで、狭いスペースにも設置可能です。



車いすでのアプローチにも配慮

手を差し出しやすいボウル形状。車いす使用者が手洗いしやすい配慮をしています。



自動水石けん供給栓タイプも品揃え

外来の多い病院共用トイレやクリニックにおすすめです。

